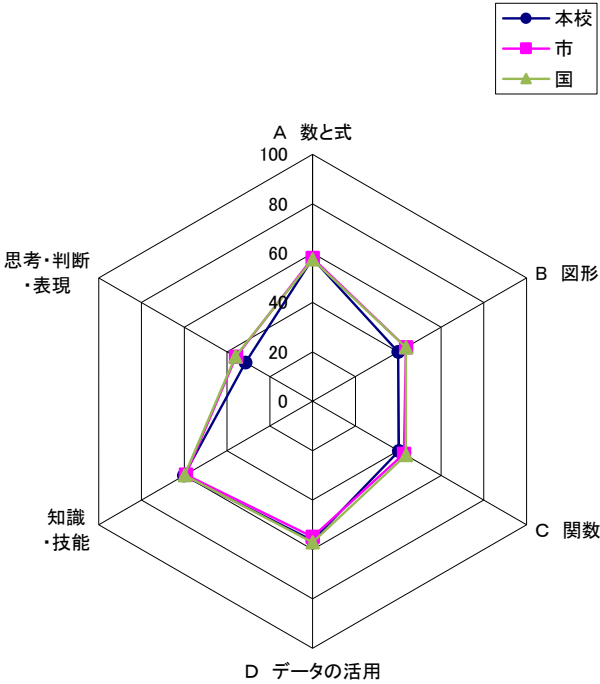


宇都宮市立城山中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	57.8	58.0	57.4
	B 図形	39.9	43.6	43.6
	C 関数	40.3	42.7	43.6
	D データの活用	56.4	54.9	57.1
観点	知識・技能	60.2	59.3	59.9
	思考・判断・表現	31.4	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は、市の平均正答率を0.2ポイント下回っているが、全国平均正答率より0.4ポイント上回っている。 ○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、正答率が全国平均より3.9ポイント高い。 ●自然数を素数の積で表す問題では、正答率が全国平均より2.3ポイント低い。	・数式は、ただの数と文字の羅列ではなく、何かしらの意味を持っていることを指導する。 ・お金の計算や、時間の経過といった、身の回りには数式化できるものがたくさんあることを意識させる。
B 図形	平均正答率は、市と全国平均正答率を3.7ポイント下回っている。 ○証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているかを問う問題では、正答率が全国平均より1.3ポイント高い。 ●筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、正答率が全国平均より0.7ポイント低い。	・公式や定理の結果だけを重視するのではなく、そこに行きつくまでのプロセスを丁寧に説明する。 ・言葉で説明することや文章で説明すること、さらには図などを活用して説明していくことなどの活動を、多く取り入れる。
C 関数	平均正答率は、市の平均正答率を2.4ポイント、全国平均正答率を3.3ポイント下回っている。 ○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では、正答率が全国平均より0.1ポイント高い。 ●一次関数の変化の割合の意味を理解しているかを問う問題では、正答率が全国平均より2.6ポイント低い。	・問題解決の方法は1つとは限らないことを説明し、式・表・グラフなど、様々な視点から解決する方法を指導する。
D データの活用	平均正答率は、市の平均正答率を1.5ポイント上回っているが、全国平均正答率を0.7ポイント下回っている。 ○多数の観察や多数回の施行によって得られる確率の意味を理解する問題では、正答率が全国平均と同等。 ●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では、正答率が全国平均より5.3ポイント低い。	・多くのデータから必要に応じて適切な情報を選択できるように課題解決のための目標は何かを明確に捉えさせる指導をする。